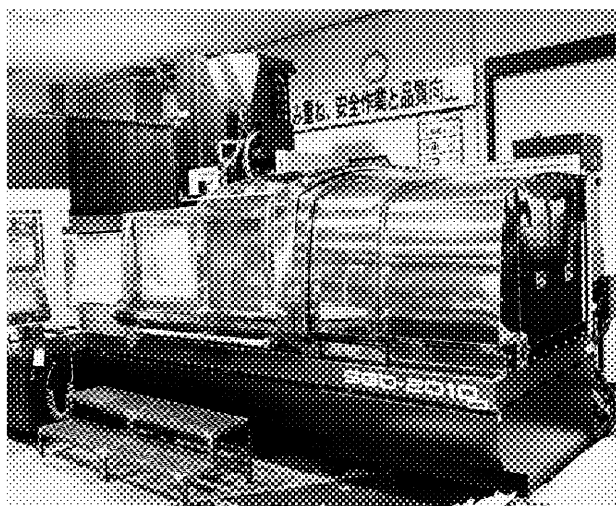


# 半導体装置など製造受託

## ヤマザキ、新規顧客開拓



【浜松】ヤマザキは機械製造受託サービス「MMS（マシンス・マニユファクチャリング・サービス）」で、従来の汎用工作機械向け以外の顧客開拓に乗り出す。新たに半導体製造装置の製造を受注し、本社工場（浜松市中央区）の建屋にクリーンルームを新設した。併せて部品の仕上げ工程の内製化を目的に、テクニカルセンター（同浜名区）に平面研削盤を導入した。投資総額は約3億円。MMS全体で2026年3月までに30社以上の受注を目指す。

### 設備拡充仕上げ内製化

ヤマザキは以前から専用機メーカー向けに、スピンドルや位置決め装置などを供給している。MMSはそれらの取引先を汎用機メーカーに広げる狙いで、23年に事業化した。すでに汎用機メーカーへの部品供給を開始し、一部機械の組み立てを受託している。一方でMMSは開始

ヤマザキがテクニカルセンターに導入した平面研削盤

当初から、工作機械以外の受託製造の可能性を模索していた。受注活動を幅広く行った結果、半導体製造装置や水処理プラント設備などの製造の受託に成功した。特に半導体製造装置は今後も高生産が継続する模様で、同社への製造受託のニーズも見込める。

今後は開発段階からの提案を視野に入れ、受託済みの業界に限定せず営業を展開する。また仕上げ工程の内製化のために導入したナガセイテックレックス（岐阜県関市）製の平面研削盤の能力を生かし、高精度な部品の受託加工も積極的に行う。

ヤマザキは27年3月期に売上高34億円、営業利益1億円を目指す。中期経営計画を遂行している。MMSは中計達成に向けた重要施策に位置付けている。